

松川（富山県）

私が幼稚園から高校にいたるまで育った場所の近くには田んぼと、その用水路、またその用水路の水が流れ込む上水の川がありました。幼いころ、その川の名前は知りませんでした。けれども小さいながらも今は新しい橋や道路があるために意味を成さない昔の橋がかかっていたり、塗装されていない土手を歩けたり、川に蛭がでて血がすわれてしまう、と怯えたり、春から夏にかけて川の中にゆれる草にいっせいに白い花が咲くのを楽しんだり、思えばそんな小さな川の表情を楽しんでいたのだな、と思います。



その川は、源流を辿ってみると「松川」という富山では城址公園の近くに流れる有名な川でした。中心部のほうでは「松川」のずっと続いていく桜並木が有名で、城址公園のそばから船も出るほどです。また、今回取り上げた私の家の近くの川はあまりに小さくて木は生えていませんでしたが、祖父母の家の近くを流れる「松川」の分流の「いたち川」もまた桜並木とすだれ柳で春は桜、夏は涼しげな景色といった感じでいい散歩道になっていました。これを知るために地元の地図を検索したのですが、富山はもともと上水が整った地域だったのかとも思いました。私の家のそばの小さな川に時々生活用水らしい水が流れ込んでいくのを見たことがありますし、ほかにも町のいたるところに川が流れ、時々途切れて地下にもぐったりしていますが、またどこかしらか、出てきているからです。また国道のそばにも国道に沿って流れているところもありました。

今現在、その小さな川は、塗装されず、中にはまだゆらゆらと水草が揺れています。しかし私が幼いころあった昔ながらの橋は取り壊され、川の近くにあった田んぼはなくなり、住宅地となりました。現在、道路になっており、川の上を交差している橋があるのですが、それは今みたいにセメントでできておらず、現在は川の上を交差していることがわからないぐらいの道なのですが、昔はちゃんと橋らしくなっており、周りの道路もまったく舗装されていませんでした。川との境界線はなく、道路を挟んで川のそばに家のある方は川のそばでいらぬものを燃やしたり、作物を育てたりしていました。春になるとクローバーやたんぼぼ、つくし、よもぎと道路には植物が生まれました。現在は道路は舗装されてそう

いった様子は見れませんが、川のそばにまだその名残が残っています。

この川についてのホームページはなかったのですが、松川に関するホームページはたくさんあったので、それをご紹介します。

<STOP 下水！>

下水道と一口で言っても、汚水と雨水を同じ管で処理施設まで運ぶ「合流式」と、汚水と雨水を別々の管に分け、汚水だけを処理施設に運び、雨水は川などに流す「分流式」とあります。「合流式」下水道であっても、管が大きければ問題がないのですが、普通はある一定の量を超えると汚水と雨水の混じった水が川などに流れ込む仕組みになっているそうです。

つまり、大雨が降って、下水管が容量オーバーになった時はトイレや洗濯機などからの汚水がそのまま川に流されることとなります。そして松川にも、合流式下水道からの出口が数カ所あります。これは、におうだけでなく、生態系にも悪影響があるそうです。

ただ、合流式から分流式に変えるには、莫大な費用がかかるそうです。ですが、せめて雨が降りそうな時は、下水を減らす努力をして、松川を美しくしたい、とホームページでは述べられていました。

<神通川と松川>

松川は神通川の分流です。その昔、神通川は現在の市内中心部を流れていました。しかし、たびたび洪水が起こった為、オランダ人技師デ・レーケが立案した分流計画案を採用し、明治34年から36年にかけて、まっすぐ湾に注ぐようバイパス工事が始められました。かつての河道は廢川地となり、富岩運河を掘った時の土で埋め立てられましたが、右岸側約20mは残され、それが現在の松川となっています。「松川」という名前は、当時の中州や川辺りにたくさんあった松にちなんで、縁起が良いとつけられたということです。

<松川ベリに残る文化財>

松川には現在遊覧船が運航し、その松川ベリの文化財を鑑賞、また春は花見舟、冬は雪見舟として四季折々の松川の自然の移り変わりを見ることができるようになっています。

遊覧船では松川7橋をめぐりをおこないますがそれぞれ文化的な価値があったり、近代的な工夫が凝らされるなど楽しいものとなっています。例えば、桜橋という中心部にある橋は、富山10代藩主・前田利保が隠居所として千歳御殿を建立し、多くの桜の木を植えたことにより命名され、昭和10年に竣工しました。石造りの親柱や高欄にみる重厚な存在感と美しいアーチ型のシルエットは、完成当時の姿で親しまれており、国の登録有形文化財

に指定されています。ほかにも、舟橋は軍事上の目的もあり、64 隻の舟を一行に並べ、その上に板を敷いた舟橋が架けられていたことにより命名、往時を偲ばせる常夜燈も残っています。

こうして川をたどるだけでも、さまざまな地元の歴史に触れることができました。

この川は今泣いていると思います。昔はもっと生き物が住んでいましたが、道路が舗装され、畑や田んぼが無くなり、流れ込むのは生活用水のみです。でも見捨てられては居ないと思います。住宅地が回りに出来たので、家族は川に沿って散歩するでしょうし、春から夏にかけては通学路などで利用される中で川は底に住む人籐とを楽しませ、癒すと思います。しかし、道路が舗装され、田んぼや畑が無くなったことによって生態系は小さくなったと感じています。

また、私の幼いころには蛍も見えました。かえるや雉もいました。しかし、現在はその小さな川以外は舗装されてしまったり、住宅街として田んぼや畑が埋め立てられてしまったため、ほとんど見ることはできません。昔は魚も見られましたが、今はどうかわかりません。この川は、もっと子供たちが遊べる川であってほしいと思います。直接入ることはしなくても、見たり、周りの植物や生き物に触れることで遊びながら学ぶことはあると思います。

参考文献

STOP!下水 <<http://www.goodlucktoyama.jp/Matsukawa/StopGesui/StopGesui.html>>

松川を美しくする会<<http://www.goodlucktoyama.jp/Matsukawa/>>

ようこそ！観光遊覧船へ<<http://www.goodlucktoyama.jp/yuuran/>>

(匿名希望)